



SIGNIS JAPAN ニュースレター

タリタ・クム！ 起きなさい！

発行：SIGNIS JAPAN（カトリックメディア協議会）

代表：土屋 至

発行所：〒107-0052 東京都港区赤坂 8-12-42
聖パウロ女子修道会内

TEL 03-3479-3941 E-mail : info@signis-japan.org

http://signis-japan/org/

ハッピー・イースター！

主のご復活おめでとうございます。「イースター」ということばの由来はゲルマン神話の春の女神「Eostre（エオストレ）」にあるという説があります。クリスマスと違いイースターは日にちが定まっていません。決められているのは、「春分の日後の、最初の満月の次の日曜日」ということ。2024年は3月31日になります。イースター前の1週間を「聖週間」といい、この聖週間の典礼にはいろいろな儀式があります。枝をもって行列したり、足を洗う洗足式があったり、十字架に覆いを掛けたり、光と水の祝福があったり、復活祭を迎えるまでのこういう儀式はとてもいいなと思います。



第48回日本カトリック映画賞決定！

『ただいま、つなかん』 風間研一監督 2023年作品

— シノドス的な「つなかん」 —

第48回日本カトリック映画賞は、風間研一監督のドキュメンタリー映画『ただいま、つなかん』に決まりました。東日本大震災で被災した宮城県唐桑町で100年以上牡蠣の養殖業を営んでいた、菅野和享・一代ご夫妻と、彼らのもとに集ってきた500人を越えるボランティアの青年たちの交流を、監督が10年の歳月を費やして撮影しました。

「つなかん」とは、唐桑町鮪立（しびたち）の「鮪（つな）」と「菅野」さんの「かん」を合わせた愛称で、ボランティアたちによって付けられました。菅野夫妻は、津波で水浸しになった自宅をボランティアにきた人々に宿舎として開放し、彼らを自分たちの子どものように愛情をもって受け入れます。みんなの「お母さん」のような一代さんは、「つなかん」を訪れた人たちが自分たちの家としていつでも帰ってこられるようにもてなします。そんな一代さんの人柄に惹かれるように多くの青年たちが、「つなかん」を訪れるようになります。

一代さんは、ボランティアにきた人たちに、牡蠣の養殖やわかめ漁を手伝ってもらい、彼らが獲った食材と海の幸で彼らをもてなします。それは、まさに血縁の家族の垣根をこえた『家族』の姿でもあります。また、「つなかん」に集ってきたボランティアの中には、何度も通ってくる人、一度だけの関りなど様々ですが、彼らもまた横のつながりを豊かにして兄弟姉妹のような関係となって行きます。彼らの中には、唐桑町に移住し、新たな家族をつくる人もいて、食堂を営んだり、町役場で唐桑町の活性化を図ったりと、しっかりと町に根をおろす人も出てきています。

しかし、そんな中、思いもよらないような海難事故が起こり、一代さんのご主人和享さんが帰らぬ人になってしまいます。ふさぎ込んでしまった一代さんのもとに、全国から元ボランティアの「子どもたち」が集ってきて彼女を励まします。彼女自身、彼らの愛に触れ、徐々に生きる勇気を再び取り戻していきます。

映画は、そんな「つなかん」の、笑い、涙、そして、どんなことがあっても希望を持って生きていこうとしている、一代さんとボランティアたちを映しだします。

いま、教会では「ともにあゆむ」という意味で「シノドス」ということを浸透させようとしています。血縁はつながっていない「つなかん」に集っている人たち、そして、彼らを母親のような気持ちで受け入れる一代さんとの関係は、まさにこの「シノドス」を実際に生きている人たちと言ってもいいのです。

今年の初めに襲った「能登半島地震」で被災された人たちに、この『ただいま、つなかん』が少しでも希望の光となればいいなと思います。

(映画チーム Br.井手口満)



<授賞式・上映会について>

授賞作品：『ただいま、つなかん』 風間研一監督 2023年/115分 [★映画公式サイト](#)

日程：2024年7月6日（土）

場所：星陵會館ホール（東京都千代田区永田町2丁目16-2）

※時間、チケット販売などは決まり次第、[シグニス web サイト](#)にてお知らせいたします。

SAA2024 シグニスアジア会議 メインテーマ決まる

「2024年シグニスアジア東京会議」(前号掲載)のテーマは“Human Communication in the Digital World for a Culture of Peace”(平和の文化を求めてデジタル世界の中で人間性に満ちたコミュニケーションを(仮訳))に決まりました。

<大枠のプログラム>

9/23(月): 到着・登録
9/24(火): 開会式、基調講演、パネルディスカッション、セッション1、歓迎夕食会
9/25(水): セッション2、日本紹介、セッション3、シグニス平和賞映画上映
9/26(木): 東京カテドラルミサ、文化探訪、閉会式、歓送会
9/27(金): ビジネス会議
9/28(土): 解散

<主な内容>

- *基調講演 酒井俊弘司教(シグニスJ顧問司教)
- *パネルディスカッション 日本の若者・女性・信徒
- *セッション
「人工知能(AI)と心の知恵」
「信仰の仕事と使命へのAI活用」
- *グループに分かれてのワークショップ・まとめ

この他、ウクライナ、パレスチナ、ミャンマー他での戦争や、世界中の避難民の現実を踏まえて、祈り・赦し・和解についての話し合いの場も入れたいと希望しています。また、第2回シグニス平和賞授賞作品『劇場版荒野に希望の灯をともし(谷津賢二監督)』を上映します。

ちょうど半年先の開催になります。これから色々な準備が具体化します。各関係先に協力を打診し、パネリストや発表者・司会者他をお願いし、当日のボランティアの方々も募集します。9/24・25日はメディアをはじめ一般の方々の参加も歓迎します。ふだん体験できないアジアの仲間と交流してみませんか?きっと新しい発見や出会いが待っているでしょう。

<お願い>

この3年間のコロナでシグニスジャパンは資金面で大変困難な状態にあります。例年の日本カトリック映画賞、新規に取り組む「シグニス映画フェスティバル」、今年の「シグニスアジア東京会議」をより有意義なものとして成功させるために、広く多くの方々に金銭的ご支援をお願いするクラウドファンディングを近々スタートします。

是非皆様のご協力をお願い申し上げます。
(シグニスジャパン事務局)

シグニス映画フェスティバル 順調に?始動中

シグニスジャパンでは、インターネットチームが中心となって「シグニス映画フェスティバル」のプロジェクトを進めています。



これはすでに過去の「タリタ・クム!」でもお知らせしている通りですが、これまでにイベントをオンラインで3回開催しました。キリスト教映画伝道ネットワークの片岡賢蔵氏(日本基督教団東中通教会牧師)をゲストにお招きし、私がホストとなってご参加の皆様と双方向で交流しながら、イベントの方向性を模索しています。

この間の大きな動きをご紹介したいと思います。まず、イベント特設サイトが完成しました。

<https://signisgoodnews.sakura.ne.jp/movie-festival/>
開催概要や審査員、これまでのイベントの配信動画、そして酒井俊弘司教からの応援メッセージなどが掲載されています。4月には映画作品の募集が始まりますが、応募された作品はサイトで次々にご紹介していく予定です。ぜひご覧ください。

また、「聖書映画コンテスト」を開催していた一般財団法人日本聖書協会、webカメラメーカーとして国際的にシェアを伸ばしつつあるOBSBOT社が協賛を決定してくださいました。それぞれ「日本聖書協会賞」、「OBSBOT賞」を設置し、入賞者には豪華な賞品が用意されています。

審査員は、第47回日本カトリック映画賞(『桜色の風が咲く』(2022年))を受賞され、『車軸』(2023年)などの作品がある松本准平監督と、酒井俊弘司教が務めてくださいます。

協賛企業団体も審査員もこれからますます増えていくことと期待しています。まだまだこれから大きく成長していくイベントです。どうぞご期待ください。

(インターネットチーム 石原良明)



昨年10月のシグニスアジア会議(タイ・バンコク)
パネルディスカッション風景